

**JASDAQ**

平成 21 年 7 月 31 日

各 位

大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル
ヴィンキュラム ジャパン株式会社
代表取締役社長 城田 正昭
(JASDAQ・コード番号: 3784)
問い合わせ先 取締役管理部長 吉田 裕
TEL 06-6348-8951

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の景気動向及び第 1 四半期の実績を踏まえ、平成 21 年 5 月 13 日付当社「平成 21 年 3 月期決算短信 (連結)」にて発表いたしました平成 22 年 3 月期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期連結累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	5,350	85	85	50	1,587.30
今回修正 (B)	4,700	△549	△550	△350	△11,111.11
増減額 (B-A)	△650	△634	△635	△400	—
増減率	△12.1%	—%	—%	—%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	5,652	354	356	216	6,860.42

(2) 修正理由

当社を取巻く環境は、特に当社の主要顧客である流通サービス業において景気後退や個人消費の低迷により、新規設備投資の凍結、減少など厳しい状況が続いております。

<アウトソーシング事業>

アウトソーシング事業において、売上高は、流通サービス業の景気悪化による新規設備投資の凍結や減少の影響を受け、当初見込んでいた新規案件が凍結になったことや既存顧客からのコスト削減要望等により当初予想を 3 億 30 百万円下回り 19 億 70 百万円となる見通しです。利益面については、一時的にコストは増加するものの将来における収益基盤体制の確立を図ることが不可欠であるとの判断により、中国子会社への積極的な運用保守業務移管のための先行投資が増加したことや他社リプレイスにより受託した新システム稼動のための一時的なコスト増加により、営業利益は当初予想を 2 億 70 百万円下回り 2 億 70 百万円の損失となる見通しです。

<ソリューション事業>

ソリューション事業においては、流通サービス業の景気悪化による新規設備投資の凍結や減少の影響により、売上高は当初想定していた大型開発案件の受注が遅延していること及び新規案件獲得が遅れていることなどにより当初予想を 1 億 50 百万円下回り 14 億 50 百万円となる見通しです。利益面については、上記記載の理由による中国子会社への積極的な開発業

務移管のための先行投資の増加、当初想定していた大型案件開発体制の確保による先行コスト発生等の影響及び景気悪化による売上案件の不足により、営業利益は当初予想を1億70百万円下回り30百万円となる見通しです。

<プロダクト事業>

プロダクト事業においては、売上高は、流通サービス業の景気悪化による新規設備投資の凍結や減少の影響を受け、新規案件獲得が遅れていることにより当初予想を1億30百万円下回り5億60百万円となる見通しです。利益面について、上記記載の理由による中国子会社への積極的な開発業務移管やネットスーパーシステムの研究開発など先行投資の増加及び売上案件の不足により、営業利益は当初予想を1億80百万円下回り60百万円となる見通しです。

これらの理由に基づき第2四半期連結累計期間の業績予想を修正し、売上高は6億50百万円減の47億円、営業利益は6億34百万円減の5億49百万円の損失、経常利益は6億35百万円減の5億50百万円の損失、四半期純利益は4億円減の3億50百万円の損失となる見通しです。

(3) 通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	11,100	220	220	130	4,126.98
今回修正(B)	10,150	△472	△475	△280	△8,888.89
増減額(B-A)	△950	△692	△695	△410	—
増減率	△8.6%	—%	—%	—%	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	13,279	395	397	312	9,923.44

(4) 修正理由

通期見通しにおいても、当社グループを取巻く環境は引き続き厳しい状況が想定される中、現在取組んでおります中国子会社へのシステム開発、システム運用の移管ならびに要員体制の見直しが上期中にほぼ完了し、下期よりコスト構造は大幅に改善できる見通しです。また、株式会社エス・エフ・アイの株式取得による連結業績への貢献も期待できます。

しかしながら、当社主要顧客である流通サービス業におけるシステム投資に関しては好転が期待できず、売上高については、当初想定していたソリューション事業、プロダクト事業における新規案件の獲得が難しい状況です。

また、利益面についても、アウトソーシング事業、ソリューション事業、プロダクト事業において中国における開発、運用体制の移管が完了し大幅に改善するものの、上期における先行投資をカバーするには至らず、また、売上案件の不足により当初予想を下回る見通しです。

これらの状況からの、通期に関しても業績予想の修正し、売上高は9億50百万円減の101億50百万円、営業利益は6億92百万円減の4億72百万円の損失、経常利益は6億95百万円減の4億75百万円の損失、当期純利益は4億10百万円減の2億80百万円の損失を見込んでおります。

2. 平成 22 年 3 月期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	5,300	80	80	45	1,428.57
今回修正 (B)	4,550	△525	△527	△325	△10,317.46
増減額 (B - A)	△750	△605	△607	△370	—
増 減 率	△14.2%	—%	—%	—%	—

(2) 修正理由

連結業績予想の修正理由と同様の理由であります。

(3) 通期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	11,000	200	200	115	3,650.79
今回修正 (B)	9,500	△488	△490	△305	△9,682.54
増減額 (B - A)	△1,500	△688	△690	△420	—
増 減 率	△13.6%	—%	—%	—%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	13,157	371	372	290	9,220.52

(4) 修正の理由

連結業績予想の修正理由と同様の理由であります。

※ 上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上